

む  
無

きゅう  
窮

どう  
洞

きゅうみやむらこくみんがっこうちかきょうしつ  
(旧宮村国民学校地下教室)



もろ  
台所に設けられた「かまど」



しゅうどう  
主洞正面の「教壇」



無窮洞は、当時の宮村国民学校裏手に掘削されました。凝灰岩をくりぬいた主洞は幅5m、奥行き19mの大きさがあり、教壇を備えています。副洞は幅3m、奥行き15mの大きさがあり、ほかに書類室や台所、便所、避難道(非常階段)なども造られています。空襲の時に全校生徒約600人が避難しましたが、酸欠状態になったために、農家から「唐み」(農具の一種)を借りだし、入り口から空気を送ったというエピソードもあります。平成14年(2002)の市制百周年を記念して整備し、公開しています。

無窮洞は第2次世界大戦中に、旧宮村国民学校(現市立宮小学校)の防空壕として掘られました。当時の校長の発案で昭和18年(1943)から昭和20年(1945)8月15日の終戦の日まで掘り続けられました。掘ったのは、先生に指導された高等部(現在の中学)の生徒たちでした。男子がツルハシなどで掘り、女子が整形を、下級生が運び出しを担当しました。「無窮」とは極まりがなく無限という意味です。正面の岩壁に刻まれた銘は、当時の校長により書かれたものです。

【見学のお知らせ】

年末、年始以外の午前9時から午後5時まで  
見学できます。

◆問合せ・見学申込先

無窮洞顕彰保存会

TEL(0956)59-2003

宮地区公民館

TEL(0956)59-2676



むきゅうどう  
無窮洞入口

無窮洞 平面図

